

令和2年7月1日

発 言 者	発 言 要 旨
木村委員	<p>荘内銀行・日新製薬スタジアムやまがた（山形県野球場）の魅力を高めるため、同球場における球史に残る偉業を紹介するなど、PR方法を検討する必要があると考えるがどうか。</p> <p>また、当球場の機能強化をどのように進めているか。</p>
都市計画課長	<p>野球ファンをさらに引きつけるような方策について検討していきたい。</p> <p>また、機能強化については、平成21年度に策定した公園長寿命化計画に基づき、設備や備品を更新し機能強化に取り組んでいる。</p>
木村委員	<p>このことについて、部長の所感はどうか。</p>
県土整備部長	<p>球場を利用する県民の意見も聴きながらPR方法を検討していきたい。</p>
木村委員	<p>防災機能を併せ持つ道の駅も出てきているが、今後求められる道の駅のイメージをどのように捉えているのか。</p>
道路整備課長	<p>県内の道の駅21駅中16駅が市町村の地域防災計画に位置付けられており、各道の駅で広域的な防災機能や備蓄などの検討が行われている。</p> <p>防災機能以外にも、休憩機能が主であった道の駅が、産直を併設する等、目的化してきており、今後は高齢化や子育てといった地域課題を解決する施設としても広く利用されていくものと考えている。</p>
木村委員	<p>今後の道の駅の設置については、どのような計画か。</p>
道路整備課長	<p>複数検討がなされているが、具体例としては、最上町の「川の駅ヤナ茶屋もがみ」を道の駅として整備、遊佐町の「道の駅鳥海」を高速道路の延伸に併せた移転又は新設、山形市の県観光物産会館の隣への新設が計画されている。</p>
木村委員	<p>これからの求められる道の駅について、部長の所感はどうか。</p>
県土整備部長	<p>道の駅に求められる機能については、時代に応じて変わってきている。</p> <p>令和8年度に高速道路の整備率が90%になり、域外との交流が盛んになることから、県ではそれぞれの県境付近にゲートウェイとなるしっかりとした道の駅を設置することを目指している。そこに様々な機能を付加し、訪れた人に山形の情報を入手してもらい、地域経済の活性化に繋げることができないのではないかと考えている。</p>
伊藤委員	<p>最上小国川流水型ダムの竣工式はいつ頃行う予定か。</p>
県土整備部長	<p>竣工式は、最上町、舟形町及び県で構成する実行委員会が主催となるが、現時点では8月3日を予定している。</p>
伊藤委員	<p>県民等に対し様々な広報媒体を活用し完成を周知してほしい。</p>

発 言 者	発 言 要 旨
伊藤委員	今後、最上小国川について、ダムの下流域を含めどのような事業が展開されるのか。
河川課長	現在は、国の防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策予算を活用し、最上町志茂区間の河川整備を進めている。その他、かわまちづくり事業により環境整備も並行しながら進めている。
伊藤委員	最上小国川の整備は、最上小国川未来振興機構を設置し流域の様々な分野の方の意見を聴きながら進めてきたが、新型コロナウイルス感染症により意見を聴くことができなくなっていることから、町議会から意見を聴取すべきと考えるがどうか。
河川課長	最上町及び舟形町議会の意見を参考とすることも検討したい。
伊藤委員	除雪機械の購入は国の雪寒事業予算の対象となっているのか。
道路保全課長	対象であり、39台の購入を予定している。
伊藤委員	道路舗装箇所の選定にあたっては、除雪請負業者からの情報も取り入れるべきと考えるがどうか。
道路保全課長	配慮できるよう総合支庁にも伝えたい。
伊藤委員	排水ポンプの購入が議案にあるが、どのように運用するのか。また、最上広域市町村圏事務組合でも排水ポンプを所有していることから、事務組合や市町村と連携して訓練を実施する必要があると考えるがどうか。
河川課長	排水ポンプの運用方法としては、国土交通省の方法を参考に、各市町村からの要請に応じて出動させる方法を検討している。 訓練については、過去に稼働まで時間を要した反省もあるため、事務組合や市町村と連携して実施することも検討していきたい。
伊藤委員	国における新広域道路ネットワーク計画の検討状況はどうか。また県内の道路整備にはどう関連するのか。
道路整備課長	国土交通省が6月に公表した中間とりまとめによれば、広域道路が「特定広域道路」と「一般広域道路」に仕分けされることになり、県内の地域高規格道路の整備のためには「特定広域道路」への位置付けが不可欠と考えているが、スケジュール等については今後示されるものと考えている。
伊藤委員	コロナ禍において県民を元気づける方法として、山形交響楽団による企業局コンサートを、楽団の演奏だけでなく、地元の方々も演奏等に参加するようなやり方で開催することも考えられると思うがどうか。
総務企画課長	これまでも、多くの方に楽しんでもらえるよう、馴染みのある曲の演奏や地元の子供合唱団との共演等を行ってきた。 今年度は、新型コロナウイルス感染症による制約や課題はあるものの、内容につ

発 言 者	発 言 要 旨
遠藤 (和) 副委員長	<p>いては十分検討をしていきたい。</p> <p>今年4月に公表された公共発注の平準化率について、本県は0.77であり、全国平均の0.75を僅かに上回っているものの、東北では4番目となっている。県としては、この数値をどのように認識しているか。</p>
企画主幹	<p>平準化率については、基準値や目標値は示されていないが、債務負担行為の活用や余裕期間制度の試行、工事発注時期の公表などにより、更に平準化を図るよう引き続き取組みを推進していきたい。</p>
遠藤 (和) 副委員長	<p>市町村に対して、県はどのように働きかけていくのか。</p>
参事 (兼) 建設企画課長	<p>人口10万人以上の市に対しては、国と連携して働きかけていくことを考えており、その他の市町村に対しても、山形県公共工事契約業務連絡協議会の場などを活用し働きかけていきたい。</p>
遠藤 (和) 副委員長	<p>除雪オペレーター担い手支援事業について、支援を受けたオペレーターは3年間県道の除雪に携わることが要件となっているが、オペレーターの数を確保するという意味では、市町村道しか除雪を行わない事業者も対象とすべきと考えるがどうか。</p>
道路保全課長	<p>オペレーターの担い手確保という、県管理道路における喫緊の課題を解決するための要件である。今年度から開始した事業であるので、状況を注視しながら今後検討したい。</p>
遠藤 (和) 副委員長	<p>国道112号霞城改良事業により4車線化した地点より西側1.35kmの県道山形山辺線の区間については、現状2車線となっているが、インターチェンジから市街地へ向かう重要な路線であることから4車線化を検討すべきと考えるがどうか。また、緊急輸送道路として無電柱化を検討すべきと考えるがどうか。</p>
道路整備課長	<p>霞城改良事業と同程度の大規模事業になると思われることから、霞城改良事業による整備効果や課題等を整理し、4車線化を含めた事業手法を検討していきたい。また、無電柱化については改築に合わせながら行う必要があると考えている。</p>
遠藤 (和) 副委員長	<p>都市計画道路美畑天童線の山形市総合スポーツセンター前から千歳橋までの区間の4車線化については、山形市から県に要望もなされているが、検討状況はどうか。</p>
都市計画課長	<p>当区間については、都市計画で決定されたとおり整備が完了しているが、山形市はこの区間を拡幅候補に位置付け、県に対し、4車線道路とする都市計画の変更と早期事業化を要望している。</p> <p>都市計画の変更には明確な理由が必要であり、県では昨年度から4車線化の必要性の検討を始めている。今後、4車線化の必要性が確認できれば、さらなる調査や山形市等との調整を進めていく予定である。</p> <p>都市計画の変更までの所要期間については、調査の進捗にもよるが数年単位の期間を要すると見込んでいる。</p>